



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 50 号 2016/5/17 発行）

◆◆ ◆<<http://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 行天豊雄 コラム／

暗雲消えないヨーロッパ

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2016/20160517gyoten.pdf>>

ヨーロッパを覆う暗雲がなかなか消えない。2009 年にギリシャを切っ掛けに始まった通貨危機で一時は統一通貨ユーロ制度は崩壊かという様相を呈したが、何とか救済策が…

＼2. 小林敏雄 コラム／

EU 統合の行方とドイツのジレンマ

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2016/20160517kobayashi.pdf>>

ヨーロッパは、1952 年の石炭鉄鋼共同体合意以来、欧州経済共同体の結成、単一欧州議定書の策定、単一通貨ユーロの導入、冷戦崩壊後の中東欧への加盟国の拡大等 60 年…

■ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<http://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「ADB 総会での AIIB のプレゼンス」 佐久間浩司
2. 「ルセフ・ブラジル大統領停職の波紋」 森川 央
3. 「イラン向け輸出 競争激化の中、見通しは厳しい」 秋山文子

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

≪掲載内容≫

○IIMA Global Market Volatility Index

（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）

1. 「FinTech の登場による金融サービスの発展とリスク」 佐久間浩司

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_12_j.pdf

FinTech は、表面的には、従来の金融機関とはカルチャーの違う生き物だが、本質的には、決済の利便性向上や情報分析に基づく信用供与など、金融業そのものである。決済や送金分野では、FinTech の発展は期待できるが、融資の絡む業務は、リスクの方も大きい。

2. 「カンボジア経済 ～今後も 7%の成長か?～」 阿南鉄朗

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_11_j.pdf

カンボジアは今後も成長率 7%台を維持するというのが大方の予想ではあるが、賃金上昇による「世界の工場」としての魅力低下、輸出相手国、特に欧州の経済動向、ドル化経済などの懸念事項もあり、後発開発途上国の位置付けを脱することは出来るのか?

3. 「トルコの金融経済情勢は安定するか? (1) トルコリラの特徴を考える」 武田紀久子

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/286_j.pdf

新興国通貨の中でも際立ってリスクセンシティブなトルコリラについて、構造要因を中心に、その背景を分析する。

4. 「日米金利の『期待プレミアム』差によるドル／円の中長期的展望」 志波和幸

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_10_j.pdf

日本国債と米国債の長短期金利差に着目し、中長期的なドル円為替相場の推移の相関性を分析。その結果、今後 5 年間は緩やかなドル安／円高が進む可能性が高い。

5. 「最近のインドにおける金融包摂の取り組み」 五味佑子

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/285_j.pdf

インドでは伝統的な銀行ネットワーク拡大に加え、ICT を活用した金融包摂の取り組みも行っている。最近のインドにおける金融包摂の取り組みを紹介する。

6. 「メキシコ経済の動向」 秋山文子

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/284_j.pdf

メキシコ経済は、結びつきが強い米国経済と同様に、回復の勢いに鈍化の兆しがみられる。足許の動向を確認すると共に、目先の見通しを整理した。

■ 今月の IIMA

ゴールデンウィークが明け、木々の緑が濃くなる爽やかな季節を迎えました。

6 月には英国の EU 残留に関する国民投票、9 月には G20 首脳会議、11 月には米大統領選挙が控える中、今月は伊勢志摩サミットが開かれます。オバマ大統領の広島訪問が伝えられる中、サミットでは金融財政に関する先進国間の政策協調が重要テーマとなるのですが、その裏に通底する問題意識は、中国が現在の経済調整局面をどのように切り抜け、世界経済がどのような影響を受けるのかということなのかも知れません。

IIMA では、夏に向けて中国のシンクタンク専門家との交流を強め、深掘りした中国調査を進めていきたいと考えております。また、昨今の人工知能の顕著な発展に触発されて日本でも話題性が高まってきた Fintech についての調査にも取り組んでいます。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2016 年 6 月 14 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.